

学校名 秩父市立吉田中学校
所在地 秩父市下吉田6402
電話 0494-77-0015

1 本校の概要

本校は秩父市の北西部に位置し、生徒数128名の小規模校である。本校の学区内には、早春にはカタクリや福寿草が咲き、夏には蛍の飛び交う里山がある。また、椋神社の龍勢祭をはじめ、塚越の花まつり、貴布祢神社の神楽など数多くの無形文化財が守り伝えられている地域である。

教育においては、近代教育の先駆者である増田玄次郎校長先生の教えである「百の説法より一の実行尊く、百の訓言より一の教師師範に真価あり」という『不言感化』の教育が、現在も吉田教育の根底に流れている。

2 本校の実践

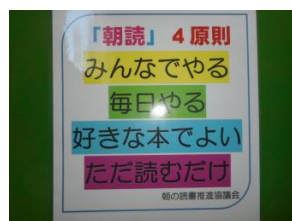
(1) 実践の視点

- ア 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- イ 学校図書館等の環境整備の工夫

(2) 実践の概要

ア 朝読書

朝会がある木曜日を除き、毎朝8時25分から10分間行っている。朝読4原則に基づき、本に親しむ時間となっている。



イ 新刊図書・新聞コーナーの設置

新刊図書は、カウンター横の新刊図書コーナーで紹介している。生徒の有志が描いたポップや分野ごとの位置の工夫などは、新刊図書への関心を高めるのに有効である。また、新聞コーナーを設置し、閲覧しやすくすることで、NIE学習等に利用している。



ウ 図書だよりの発行

生徒が図書に興味をもつよう司書教諭補助員が毎月発行している。たよりの内容は、作家や新刊図書の案内、本を多く借りた生徒の紹介などである。また、保護者への貸出期間の案内も行っている。

エ コンピュータによる蔵書管理

図書館の全蔵書を登録し、図書委員会による図書の貸出の際、活用している。その結果、蔵書数や年間貸出数の管理の負担が軽減されている。



オ 図書委員会による活動

図書館の利用を促すために、毎月呼びかけを行っている。また、11月を「読書月間」として読書量調査などの活動を行い、読破数の多い生徒の表彰を行っている。



3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 朝読4原則に基づき、教職員も含め全校で朝読書に取り組んだ結果、1ヵ月に1冊以上本を読む生徒の割合が90%を越えた。

イ 新刊図書の案内や貸出冊数のグラフ、図書館だよりなどを工夫したところ、図書館に関心をもち、本を借りる生徒が増え、貸出図書数が前年度と比べ60%アップした。

(2) 課題

「読書センター」、「情報センター」機能の充実は図れているので、「学習センター」機能を多くの教科に広げていきたい。

(3) おわりに

中学生の活字離れが指摘される中、本校では朝読書を中心に読書に親しむ習慣が身に付いている。今後は、いわゆる文豪の作品にも挑戦する生徒を増やしたい。